



平安だより 2022年1月号 平安幼稚園

「思いも新たに」 牧師・園長 江間紗綾香

『光の子として歩みなさい。』

(エフエソの信徒への手紙五章八節)

新しい年が始まりました。とは言え、寒さも厳しく、夏に比べると一日が短く感じ、動物たちが冬眠するのもうなすけます。同じ二四時間なのに、そのように感じてしまうのは夜が長いからです。冬は日が沈むのが早いだけではなく、日が昇るのも遅いです。ですから、太陽に照らされている時間がとても貴重に感じてしまいます。園庭の植物も夏に比べると成長は緩やかで、かめきち君も動きが緩慢です。私たちは、体が縮こまってしまっていないでしょうか。冬は温かいお部屋で過ごすのが一番良いと思うこともしばしばあります。

しかし、そのような寒い冬にも楽しみはたくさんあります。その一つが、夜空にのぼる星がきれいに見えることです。空気が澄んでいるため、はっきりと星を見ることができるようです。函館や浜松にいた時、夜遅くに帰る時は何となく空を見上げてオリオン座や冬の大三角形を探したことがあります。確かに寒いのですが、星に導かれてお生まれになったばかりのイエス様に会いに来た占星術の学者たちも、空を見上げてひととき大きく輝く星をたよりに旅をしたことに思いを馳せ、あたたかい心になることもありました。また、イエス様ご自身が私たちの人生を照らす光となってくださっているとの聖書の言葉を思い出すこともありました。光はいつ

でも私たちの心だけではなく、人生そのものを明るく照らしてくれるのだと小さな星や日の出を見て気づかされる時、しっかりと立つことができます。

また、誰かの存在が光となることもあります。長期休暇になると、子供たちが来なくなるため、幼稚園だけではなく建物全体がとても静かで冷たい空気に包まれています。多くの教会は幼稚園がありませんので、毎日このような空気に包まれています。それは教会特有の荘厳な静けさと言えます。しかし、四月から子供たちと過ごすのが当たり前になった私にとって、この静けさは少し寂しい感じがするようになりました。それは子供たちが私たちにとっての光だからです。この光は温かく、元気な光です。優しさに包まれた光です。希望の光でもあります。何より、神様とご家族の愛に満たされた光です。その光があってはじめてこの平安幼稚園は輝くことができるのです。同時に、一人一人の光を大切に輝かす使命が幼稚園には与えられていることを覚えます。改めて子供たちは幼稚園だけではなく、教会にとっても、また社会全体にとっても「光の子」なのだと感じた年末でした。

昨年末から、新型コロナウイルスの新たな変異株がまん延しつつあります。これまでと変わらず、感染対策に気をつけながら毎日の生活や行事を進めていきたいと考えています。ご家庭におきまして、お子様たちの健康管理を引き続きよろしくお願いいたします。また、第三保育期は各学年のまとめの時であり、次のステージへの準備の時でもあります。子供たちがそれぞれのペースで成長したことを確認しながら、次のステージに少しでもスムーズに移っていくことができると考えています。何より、子供たちがこの一年を振り返って「楽しかった」「頑張ったよ」と笑顔で言うことができるよう、教職員一同、心を一つにして保育の業に励みたいと思っています。